

昭和五十二年

日本思想史関係研究文献要目

凡 例

- 一、本要目には、昭和五十二年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。
- 一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。

一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録 Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。

ⅠⅡ部とも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道德教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。

単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。

一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史研究室所属の助手・大学院学生があたった。

一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時日の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総 雑

日本における生と死の思想

田村了朗編

有斐閣

日本文化史叢考

大久保道舟

誠信書房

日本人の死生観 上・下

加藤周一他
M・ライシュ
矢島翠訳

岩波書店

民衆精神の原像

齊藤博

新評論

日本禅門偉傑伝

菅原道禅

国書刊行会

日本宗教史 1・2

笠原一男編

山川出版社

日本思想史講座

1 古代の思想

古川哲史編
石田一良編

雄山閣出版

8 近代の思想 3

別巻1 日本人論

日本イデオロギー論

戸坂潤

岩波書店

日本文化史

1 古代中世

川崎庸之編
奈良本辰也編

有斐閣

2 近世近代

3 文化の展開と継承

堀一郎著

未来社

堀一郎著 1 古代文化と仏教

堀一郎 未来社

宗教社会史研究

立正大学史学会編

雄山閣出版

日本のシャマニズム 下

桜井徳太郎

吉川弘文館

神社

岡田米夫

近藤出版社

式内社の研究 2・3

志賀剛

雄山閣出版

住吉大社

西本泰

学生社

天皇の祭祀

村上重良

岩波書店

南禅寺史

桜井景雄

法蔵館

宗教と歴史

脇本平也編

山本書店

仏教史学論集

二葉憲香博士還
歴記念会編

永田文昌堂

仏教の社会的
機能に関する基礎的研究

古田紹欽編

創文社

日本仏教のこころ

田村圓澄編
田村芳朗編

有斐閣

東大寺

平岡定海

教育社

日本彌勒浄土
思想展開史の研究

平岡定海

大蔵出版

地方文人

塚本学

教育社

古代文化の探求

上田正昭

講談社

日本古代文化の原像
—環シナ海文化の視点

大林太良編
谷川健一編

三一書房

埋もれた巨像
—国家論の試み

上山春平

岩波書店

| | | | | | | |
|----|------------------|---------------|---------|---------------|-----------|----------|
| | 湿原祭祀 | 金井典美 | 法政大学出版局 | ヤマトタケル | 吉井 巖 | 学 生 社 |
| | 上代の呪的信仰 | 金子武雄 | 中央公論社 | 神武天皇Ⅱ徐福伝説の謎 | 衛 積 挺 | 新人物往来社 |
| | 物部氏の伝承 | 畑 井 弘 | 吉川弘文館 | 古代の法と大王と神話 | 沖 由 穂 也 記 | 木 鐸 社 |
| | 聖徳太子 | 白石 重 | 動 向 社 | 古事記 | 石 尾 芳 久 | 木 鐸 社 |
| | 日本古代の神祇と政治 | 熊谷保孝 | 日東館出版 | 古事記 | 上 田 正 昭 編 | 社会思想社 |
| | 日本神話研究 1 | 伊藤清司編 | 学 生 社 | 古事記 | 倉野憲司他 | 大和書房 |
| | 日本神話研究 2 | 大藤太良編 | 学 生 社 | 論集・古事記の成立 | 横田健一編 | 塙 書 房 |
| | 日本神話研究 3 | 稲岡耕二編 | 学 生 社 | 日本書紀研究 10 | 志 賀 匡 | 千代田書房 |
| | 神 話 上・下 | 大林太良編 | 学 生 社 | 日本古代教育史 | 池 田 源 太 | 永田文昌堂 |
| | 日本神話 2 | 日本文学研究資料刊行会編 | 有精堂出版 | 奈良・平安時代の文化と宗教 | 山路平四郎編 | 早稲田大学出版部 |
| | 国譲り神話の周辺 | 畠山 兼 人 | 溪 水 社 | 日本靈異記 | 国 東 文 麿 編 | 早稲田大学出版部 |
| | 記紀神話の研究 | 広 畑 輔 雄 | 風 間 書 房 | 伝教大師最澄のこころと生涯 | 渡 辺 守 順 | 雄山閣出版 |
| | ―その成立における中国思想の役割 | 柳 井 巳 酉 朔 | 桜 楓 社 | 日本思想大系3 律令 | 井上光貞他校注 | 岩波書店 |
| | 天岩戸神話の研究 | 山 田 宗 睦 | 有精堂出版 | 中 世 | | |
| | 日本神話の研究 上 | 「講座日本の神話」編集部編 | 有精堂出版 | 論集中世の窓 | 人 編 | 吉川弘文館 |
| | 講座日本の神話 | | 有精堂出版 | 中世成立期の社会と思想 | 永 原 慶 二 | |
| 1 | 日本神社研究の方法 | | 有精堂出版 | 中世内乱期の社会と民衆 | 辻 彦 三 郎 | |
| 7 | 日本神話と祭祀 | | 有精堂出版 | 藤原定家明月記の研究 | 木 宮 泰 彦 | 国書刊行会 |
| 8 | 日本神話と氏族 | | 有精堂出版 | 栄西禅師 | 荒 井 諦 禅 | |
| 9 | 日本神話と朝鮮 | | 有精堂出版 | 道元禅師 | | |
| 10 | 日本神話と琉球 | | 有精堂出版 | | | |
| 11 | 日本神話の比較研究 | | 有精堂出版 | | | |

日本の禅語録 1―栄西―
 古田紹欽 講談社
 日本の禅語録 7―夢窓―
 柳田聖山
 一休―風狂の精神―
 西田正好
 禅の思想
 『正法眼蔵』の基本思想
 佐橋法龍 雪華社

親鸞の信と念仏
 岡亮二 永田文昌堂
 親鸞と共同体の論理
 戸田省二郎
 講座 親鸞の思想 2
 稲城選恵他 教育思潮社

〃 4
 武邑尚邦他
 〃

歎異抄
 梅原真隆 宝文館出版
 真宗成立史の研究
 細川行信 法蔵館

増補 真宗史の諸研究
 谷下一夢 同朋舎
 一遍上人―旅の思索者―
 栗田勇 新潮社

日蓮聖人の法華経
 笹川義孝 山喜房仏書林
 中世仏教説話論
 藤本徳明 笠間書院

近世

キリシタン大名
 岡田章雄 教育社

中江藤樹
 山住正己 朝日新聞社

中江藤樹の儒学
 山本生命 風間書房

新井白石の人物と政治
 宮崎道生 吉川弘文館

佐藤信淵―思想の再評価
 碓井隆次 タイムス

大塩平八郎
 宮城公子 朝日新聞社

佐久間象山再考
 前野喜代治 銀河書房

山田方谷・三島中洲
 山田梅次郎 明德出版社

細井平洲・附中西淡淵
 鬼頭有一
 〃

日本の禅語録 14―正三―
 藤吉慈海 講談社

日本の禅語録 19―自隠―
 鎌田茂雄
 〃

新風盤珪の不生禅
 倉賀野恵徳 山喜房仏書林

木喰仏海上人
 鶴村松一 松山郷土史文学研究会

―日本廻国遊行僧の生涯―
 吉川幸次郎 筑摩書房

本居宣長
 小林秀雄 新潮社

宣長と篤胤の世界
 子安宣邦 中央公論社

みちのく蘭学事始
 七宮洋三 新人物往来社

―大槻玄沢とその時代―
 平重道 宝文堂出版販売

林子平―その人と思想―
 上原重久 講談社

高橋景保の研究
 奈良本辰也 祥伝社

適塾と松下村塾
 高野澄 創元社

吉田松陰
 古川薫 創元社

水戸天狗党
 田中真理子 講談社

開国の精神
 紀田順一郎 玉川大学出版部

幕末維新期の外圧と抵抗
 洞富雄 校倉書房

近代

近代日本思想大系 18
 河上肇 河上義彦編 筑摩書房

| | | |
|----------------------------------|----------------|---------|
| 近代日本思想大系 29 小林秀雄集 | 小林秀雄編 | 筑摩書房 |
| 近代日本思想大系 31 明治思想集 2 | 吉本隆明編 | 筑摩書房 |
| 近代日本思想大系 34 大正思想集 2 | 松本三之介編 | 〃 |
| 近代日蓮教団の思想家 ―近代日蓮教団・教学史 試論― | 鹿野政直編 | 〃 |
| 明治維新と独逸思想 | 中濃教篤編 | 国書刊行会 |
| 近代日本のパトス | 大塚三七雄 | 長崎出版 |
| 明治国学発生史の研究 | 鈴木正 | 勁草書房 |
| 村落祭祀と国家統制 | 藤井貞文 | 吉川弘文館 |
| 自由民権運動とその発展 | 米地実 | 御茶の水書房 |
| 中江兆民の世界 『三酔人経綸問答』を読む | 平野義太郎 | 新日本出版社 |
| 徳富蘇峰の研究 | 木下順二編 | 筑摩書房 |
| 評伝 木下尚江 | 江藤文夫編 | 筑摩書房 |
| 大逆事件 2、3、4 | 杉井六郎 | 法政大学出版局 |
| 幸徳秋水の思想と大逆事件 | 山極圭司 | 三省堂 |
| 内村鑑三伝 | 神崎清 | あゆみ出版 |
| 内村鑑三 その世界主義と日本主義 をめぐって | 大原慧 | 青木書店 |
| 内村鑑三 | 政池仁 | 教文館 |
| 正デモクラシー | 太田雄三 | 研究社出版 |
| | 亀井俊介 | 中央公論社 |
| | 論集日本歴史刊 行会編 | 有精堂出版 |

II 雑誌・紀要論文目録

| | | |
|------------------------------------|-------|-----------------|
| 大正・昭和教育の天皇制イ デオロギイ ² | 山本信彦 | 新泉社 |
| 学校行事の軍事的・擬似自 治的性格 | 今野敏彦 | 新泉社 |
| 西田幾多郎の世界 | 鈴木亨 | 勁草書房 |
| 西田幾多郎 人と思想 | 下村寅太郎 | 東海大学出版会 |
| 人と思想 北一輝 | 松沢哲成編 | 三一書房 |
| 昭和維新 | 鶴巻靖夫 | 北斗書房 |
| 在野の思想家たち 日本近代思想の一考察 | 松田道雄 | 岩波書店 |
| 高群逸枝 | 堀野清直 | 朝日新聞社 |
| ヨーロッパ思想と在来思想 | 宮崎道生 | 季刊日本思想史 四 |
| 日本文化の「模倣性」につ いて | 芳賀幸四郎 | 〃 |
| 日本思想史上の中央と地方 | 高橋富雄 | 季刊日本思想史 三 |
| みやことひなの論理 | 〃 | 〃 |
| 対談・日本の思想 二 ―個の問題と社会科学 | 山之内靖 | 現代と思想 二九 |
| 日本民俗社会における世界 観の一考察 | 古田光 | 人文社会科学研 究 一五 |
| | 坪井洋文 | |

総 雑

村落社会の構造と民俗理念 (一) 赤田光男 日本文化史研究 一

「民衆思想史」の立場 安丸良夫 一橋論叢 七八―五

思想史研究における科学と哲学 古田光 横浜国立大学人文科学 二二三

石田一良先生の学風と業績 玉懸博之 文化 四〇―三・四

恥と罪 ―ベネディクトの「菊と刀」に寄せて 古川哲史 日本及日本人 一五四四

神道史上の頼朝と家康 鎌田純一 季刊日本思想史 五

「中今」の語釈をめぐって 西田長男 〃 〃

「海人語り」の構造 鈴木千代乃 〃 〃

仏舍利信仰の変遷 景山春樹 国学院雑誌 七八―九

日本における血盆経信仰について 武見李子 日本仏教 四一

東北地方への密教伝播 月光善弘 智山学報 二六

修験道研究序説 沼田健哉 桃山学院大学社会学論集 一〇―二

日本仏教に於ける神と仏 森田康之助 季刊日本思想史 五

伝統芸能にみられる時代の思想 原太郎 紀要(民族芸術研究) 三

天皇制の原形 上山春平 世界 三七六

神道・神社・生活の歴史 川北靖之 神道史研究 二五―二

鈴木秀夫著「超越者と風土」 後藤光一郎 宗教研究 五一―一

桜井好朗著「神々の変貌―寺社縁起の世界から―」 樋口州男 歴史評論 三三一

竹田聰洲著「日本人の「家」と宗教」 孝本貢 日本仏教 四一

菊地良一著「古代・中世日本仏教文学論」 関口忠男 日本文学 二六一―一〇

少数者の思想―丸山真男「戦中と戦後の間一九三六―一九五七」― 三谷太一郎 思想 六三九

山之内靖著「社会科学の方法と人間学」住谷一彦著 杉原四郎 社会経済史学 四二―四

「河上肇の思想」 〃 〃

古代 〃 〃

日本文化史試論 日本化の系譜② 青山茂 日本文化史研究 (帝塚山短大) 二

宮廷貴族の思想 黒板伸夫 季刊日本思想史 四

氏族の思想 高橋富雄 〃 四

古代における「中央的なもの」と「地方的なもの」 笠井昌昭 〃 三

平安中期の「例」について 龍福義友 論集中世の窓

時間の様相 下
古代日本文学と時間意識

永藤 靖

文芸研究 明治
日本文学部 紀要
三七

記紀の性質について

山尾 幸久

立命館文学
三八六—三九〇

神代紀の基礎的考察

三宅 和朗

史学四八(二)

「記紀」の成立過程比較論

水野 祐

歴史手帖
五一—二

古事記と日本書紀
—高木神について—

西川 順土

紀要(皇学館大)
一—五

記紀研究の問題点

川口勝康・野口
武司・山尾幸久
・和田萃・鈴木
靖民

国学院雑誌
七八—一

「記序」偽撰説批判覚書

菅野 雅雄

古代文学 一六

「上宮聖徳法王帝説」管見

田中 嗣人

文化史学 三〇

播磨風土記の天皇説話

長野 一雄

国文学研究六一
(早稲田大学国
文学会)

播磨風土記郡別応神説話考

〃

〃 六三

『延喜式』と「儀式」の関
係

所 功

日本歴史三五五

中臣寿詞の基礎資料

青木 紀元

神道史研究
二五—一

『天神縁起』と『大鏡』

真壁 俊信

神道及び神道史
(国学院大)三〇

猪熊本「北野天神御託宣紀
文」(研究余録)

〃

日本歴史三四五

院政期の一鴻儒
—藤原敦光の生涯—

大曾根 章介

国語と国文学
六四—二

原始神道

肥後 和男

宗教社会史研究

魏志倭人伝の持衰について

泉 隆弐

桐朋学報 二七

四・五世紀の祭祀形態と王
権の伸張

石野 博信

ヒストリア七五

再び八十嶋祭について
—岡田精司氏の批判—

田中 卓

神道史研究
二五—三

土着信仰と宗教受容—韓国
と日本における仏教受容
形態の比較—伽藍構造と
仏画を中心に

柳 東植

朝鮮学報 八三

崇神・垂神紀にみられる神
祇思想の問題

日野 昭

竜谷大学仏教文
化研究所紀要
一六

西宮記の出典明記形式につ
いて

木本 好信

史聚(駒沢大)
三・四

推古・舒明紀に於ける災異
記事

土屋 真澄

竜谷大学仏教文
化研究所紀要
一六

古代祭祀に見える報祭の系
譜

栗原 圭介

大東文化大学漢
学会誌 一六

神祇令の「祭」—律令国家
祭祀体系再検討のための
試論

黒崎 輝人

文芸研究(日本
文芸研究会)
八六

鎮魂祭と石上の鎮魂法

松倉 文比古

竜谷大学仏教文
化研究所紀要
一六

古代宮廷祭祀の一考察

森田 悌

風俗 一六一—

古代製鉄祭祀の神々 (上)(下)

出雲国造の祭事・葬送・禁忌

古代東国における竈信仰の一面―竈内支石のあり方について―

春日鎮祭の宗教的事情について

奈良時代末期における神宮司の成立

齋宮寮の成立をめぐって

齋宮研究の成果と課題

諸国一宮・惣社の成立

神前読経の一考察

講を中心とした仏教の展開―特に上代を中心として

天武・持統朝の護国經典の受容について―特に祈年の性格の始源をめぐって―

律令制下の仏教―天武朝における律令仏教の形成―

古代国家仏教の形成と護国經典

真弓常忠

平井直房

桐原健

高階成章

熊谷保孝

熊田亮介

渡辺寛

伊藤邦彦

高藤晴俊

日野賢隆

松本信道

宮城洋一郎

梅林久高

神道史研究

二五―二二
二五―三

宗教研究
五〇(四)

国学院雑誌
七八―九

季刊日本思想史
五

神道宗教
八六

文化
四一(一・二)

皇学館論叢
一〇(一)

日本歴史三五五

神道学
九四

熊本史学
五〇

駒沢史学
二四

竜谷大学仏教文化研究所紀要
一六

竜谷大学仏教文化研究所紀要
一六

古代国家仏教における神仏関係―東大寺大仏造営をめぐって―

猪名川中流域における行基の仏教運動

南都仏教における女人往生思想

南都浄土教における善導教學の受容―とくに永観―往生拾因―と珍海―決定往生集―を中心に―

最澄と空海―弘仁七年から同十二年にいたる時期を中心に―

伝教大師最澄における一乗道の形成

比較文学と比較思想―特に弘法大師の―三教指帰―を中心として―

天台法華宗創設の意図

雨僧正仁海と空海入定伝説

「遍照發揮性靈集」にみられる「莊子」の影響―上―

寂光大師円澄と慈覚大師円仁―上―

円仁帰朝後の日本天台宗と光定に関する一試論

前期摂関政治成立過程における藤原良房の宗教行政―

文殊信仰の展開―文殊会の成立まで

八重樫直比古

宮城洋一郎

納富常天

明山安雄

川崎庸之

久下陞

谷萩弘道

木内堯央

白井優子

静慈円

仲尾俊博

小山田和夫

吉田靖雄

紀要(ノートルダム清心女大)文化学編一―一

仏教史研究(竜谷大)

印度学仏教学研究
二五(二)

仏教文化研究
二三

思想
六三一

仏教大学研究紀要
六一

密教学
一三一―一四

日本仏教
四〇

密教学研究
九

密教文化
一一九

宗教社会史研究

南都仏教
三八

高木豊著「平安時代法華仏教史研究」

藺田香融

日蓮とその教団 二

中世

中世に生きる人々 一

阿部善彦

月刊百科 一八一

〃 一八一

日本紀略と外記日記の関連について

木本好信

史聚(駒沢大) 七

中世道徳思想に関する基礎的考察―『十訓抄』を素材として―

福田広子

政治経済史学 一三三二

北畠親房の哲学

津下有道

神道宗教 八六

初期の足利学校 一上

結城隆郎

皇学館論叢 一〇四

〃 一〇五

義堂周信と清原良賢―清家学成立の契機―

和島芳男

大手前女子大学論集 一一

『武田信繁家訓』について―序文の作者と堀木本の紹介―

桃裕行

宗教社会史研究

中世の庶民信仰について

今堀太逸

大学院研究紀要(仏教大) 五

放生会と現世利益

田中祥雄

日本仏教史学 一二

中世国衙祭祀と一宮・惣社―若狭彦神社「詔戸次第」を中心に―

岡田荘司

神道及び神道史(国学院大) 三〇

伊勢神道の形成と道家思想―神観を中心として―

高橋美由紀

研究報告(東北大・日本文化研) 一三

神道集とお伽草子

村上学

日本文学 二六一二

―そのイントロダクション(お伽草子)―

講について―一七―鎌倉仏教の性格―一三―

居村栄

岡山大学教育学部研究集録 四六

〃 一八一 四

〃

〃 四七

末法と戒―最澄・法然・日蓮を巡って―

本間裕史

日蓮教学研究所紀要 四

中世初頭の天台法華宗の教団と教学

高木豊

宗教社会史研究

称名寺開山審海長老と天台学 一上

高橋秀栄

金沢文庫研究 二二三―三

〃 一上

〃

〃 二三―六

良助親王とその自心寂光説―二――紅葉書と山王七社影響卷―

大久保良順

天台学报 一九

中世東寺の祈禱文書について―古文書体系論と宗教文書―

富田正弘

古文書研究 一一

「阿婆縛抄」をめぐる二、三の問題―曼殊院本を中心にして(含曼殊院本)―

宮島新一

仏教芸術 一二二

「阿婆縛抄」各巻奥書一覽―

| | | |
|---|-------|-----------------------|
| 解脱上人貞慶の笠置隠遁について | 富村孝文 | 日本歴史三四八 |
| 貞慶の宗教活動について | 上田さち子 | ヒストリア七五 |
| 貞慶の同朋と弟子たち | 富村孝文 | 宗教社会史研究 |
| 華嚴宗沙門高舟の教学 | 小林実玄 | 竜谷大学仏教文化研究所紀要 一六 |
| 高舟の戒律思想 | 土橋秀高 | 〃 |
| 明恵における説話受容 | 野村卓美 | 日本文学 二六—一二 |
| 叡尊における浄土教義の受用—下— 梵網經古述記 輔行文集を中心として— | 日置孝彦 | 金沢文庫研究 二二—一七 二二—一七 |
| 極楽寺の縁起と忍性 | 和島芳男 | 金沢文庫研究 二二—一六 |
| 金沢文庫における浄土教典籍「付 解題」 | 石田瑞曆他 | 〃 二二—一二 |
| 法然上人における善導教学の受容とその展開—とくに「往生礼讃」の受容と展開に関する基礎資料について「共同研究」— | 藤堂恭俊他 | 仏教文化研究 二二—三三 |
| 法然の現世利益観 | 浅井成海 | 竜谷大学仏教文化研究所紀要 一六 |
| 法然の「選択」思想について—その生成と展開をめぐって— | 藤本浄彦 | 東洋思想三一—一 |
| 源空の「三部經大意」について | 末木文美士 | 日本仏教 四三 |

| | | |
|----------------------------------|------|---------------|
| 『選択集』概要 | 高橋弘次 | 東洋思想三一—一 |
| 『選択本願念仏集』の念仏 | 川瀬健一 | 〃 |
| 隆寛浄土教の東国伝播 | 日置孝彦 | 金沢文庫研究 二二—三三 |
| 法然門下の現世利益観—一— 弁長師における現世利益の問題— | 浅井成海 | 竜谷大学論集 四一—一 |
| 証空における善導教学の受容—とくに「觀經秘決集」を中心として— | 深貝慈孝 | 仏教文化研究 二二—三三 |
| 念仏と法難に関する一考察 | 小泉宗之 | 真宗研究 二二— |
| 法然・親鸞の善導受容の問題 | 石田充之 | 印度学仏教学研究 二二—二 |
| 親鸞の一消息の解釈— ぐい— わゆる護国思想をめぐって— | 桜井好朗 | 年報中世史研究 二二— |
| 親鸞の往生理解 | 寺川俊昭 | 大谷学報 五七—一 |
| 親鸞の入滅は—二六三年— 西曆表記における錯誤について— | 靈山勝海 | 真宗研究 二二— |
| 親鸞の鬼神不礼について— 人間における虚妄性の否定— | 山崎龍明 | 〃 |
| 西方指南抄をめぐって— 宝物展観の問題点— | 平松令三 | 〃 |
| 恵信尼文書「大事？」—「大風？」について | 高下恵証 | 〃 |
| 末燈鈔批判について | 福原蓮月 | 竜谷教学 一二— |
| 真宗における正統と異端序説 | 山崎龍明 | 武蔵野女子大学紀要 一二— |

初期真宗教団の顛末—唯善事件の意味するもの—

中根和浩

三浦古文化二二

蓮如の無常観—その思想的意味—

堀美佐子

宗教研究 五一—二

佐渡における真宗寺院の開過程について

小林祐玄

尋源(大谷大) 二九

郷村制の形成と真宗

早島有毅

龍谷大学仏教文化研究所紀要 一六

近江国菅浦荘における仏教の展開

星野元貞

〃

越前における真宗寺院の開創伝承

首藤善樹

〃

加賀一向一揆の構造

金龍静

日本史研究 一七四

鎌倉浄土教の神祇観—一遍教学を中心に—

広神清

思想 六三三

一遍智真と捨身往生

今井雅晴

日本仏教史学 一二

一遍の宗教の歴史的性格—道神及び禅宗との関連—

広神清

筑波大学哲学・思想学系論集昭和三一年度 二六四

栄西と道元

古田紹欽

歴史と地理 二六四

道元禅師と百文の戒学思想

青龍宗二

宗学研究(駒沢大学曹洞宗宗学研究所) 一九

道元と如浄—四—

伊東洋一

文経論叢 一二—五

道元禅師における宗教

田村武夫

宗学研究(駒沢大学曹洞宗宗学研究所) 一九

道元禅師の只管打坐の真意

柏田大禅

理想 五三一

再び道元禅師の一夜碧巖將來について—鏡島元隆博士の高説に答える—

竹内道雄

宗学研究(駒沢大学曹洞宗宗学研究所) 一九

道元における叢林教育の二面性—仏の教育と菩薩の教育—

加藤健一

日本思想史学 九

道元禅師志比庄下向の背景

中世古祥道

宗学研究(駒沢大学曹洞宗宗学研究所) 一九

正法眼蔵考—七—

秋重義治

〃

「正法眼蔵那一宝」成立考

小坂機融

駒沢大学仏教学部研究紀要三五

寂円派研究序説

石川力山

日本仏教史学 一二

瑩山禅師の伝戒の師について

渡部賢宗

宗学研究(駒沢大学曹洞宗宗学研究所) 一九

峨山におけるカナ法語の性格

椎名宏雄

〃

「御抄」の「正法眼蔵」解釈—否定的表現について—

伊藤秀憲

駒沢大学仏教学部研究紀要三五

中世における曹洞禅者の教養

原田弘道

〃

大燈国師破尊宿夜話の研究

平野宗浄

禅文化研究所紀要 九

中世禅林における女性の入信

古田紹欽

印度学仏教学研究 二六—一

禅僧の活動と在地領主と民衆

広瀬良弘

歴史手帖 五一—〇

日本における実学運動の展開
 開二十 古学派の实学観
 一八 伊藤仁斎の实学観
 とその哲学
 // 一二二
 九
 徂徠における「天」と「作為」
 弁道書の波紋
 徂徠「論語徴」について
 戦国乱世の弧客—江戸古学派における「孟子」解釈の分裂—
 「偏」と「泛」—富永仲基の「五類」について—
 帆足万里の医学
 梅園と張載
 安藤昌益の医学思想
 安藤昌益と橋本律蔵
 二井田村そのころ—安藤昌益の出自をめぐって—
 安藤昌益の思想形成と風土的基盤
 大原幽学の教導仕法について—その婦女子養育を中心—
 大原幽学出自考
 大原幽学出自考説—正月氏の「駁す」文に寄せて—

源 了 圓 心 三〇—九
 // 三〇—一一
 小島 康 敬 日本思想史学九
 小笠原 春 夫 季刊日本思想史五
 山下 龍 二 名大文学部研究論集 七二
 野口 武 彦 文学 四五—二
 梅谷 文 夫 一橋論叢 七七—三
 服部 敏 良 日本歴史三四七
 柳 沢 純 南 日本思想史学九
 今 宿 純 男 ヒストリア七四
 稲 葉 克 夫 国史研究(弘前大) 六六
 石 垣 忠 吉 紀要(民族芸術研) 三三
 三 宅 正 彦 //
 戸 沢 行 夫 史学(慶大) 四八—二
 水 谷 盛 光 郷土文化 三一—二
 // 三二—一

大原幽学日記(全集本)の検討—特に「道の記」「性学日記」「口まめ草」について—
 性学仕法の基礎的考察
 二宮尊徳の思想
 二宮尊徳における神儒仏
 報徳社運動の原点—相州片岡村の仕法を中心として—
 北関東に成立をみた一農書の歴史的位置—小貫万右衛門著『農家捷徑抄』について—
 鹿野小四郎『農事遺書』—元禄・享保期における一思想動向—
 近世日本の農学
 心学における中央と地方
 梅岩教学と仏教
 石門心学と教育
 三井高業学芸資料(一)—「高業抄」抄出(上)—
 幕末泉州における豪商の思想—里井浮丘関係文書拾遺—

松 沢 和 彦 駿台史学 四一
 木 村 礎 //
 服 部 弁 之 助 早稲田社会科学 一六
 篠 原 雅 夫 歴史学と歴史教育 一三
 上 杉 允 彦 社会科学討究 二二—三
 泉 雅 博 研究論集(神奈川大) 一
 倉 地 克 直 北陸史学 二六
 堀 尾 尚 志 科学史研究 一二—一
 柴 田 実 季刊日本思想史 三
 高 神 信 也 印度学仏教学研究 二五—二
 仁 科 弘 研究紀要(鹿児島短大) 一九
 中 井 信 彦 三井文庫論叢
 今 井 典 子 待兼山論叢(史学篇) 一〇
 青 木 善 子

柴野栗山ノート(一)

大和武生

史窓(徳島地方史研究会) 七

秋成と宇万伎―その学問授受の実際について―

鷲山樹心

花園大学研究紀要 八

古賀穀堂の学政論―佐賀藩における政治と教育の關係―

井上義巳

紀要(九州文化史研究所) 二二

渡辺華山と高野長英

高橋克己

文化評論 一九〇

儒医並河天民とその周辺

山田重正

花園大学研究紀要 八

江戸の蘭学者宇田川榕菴から名古屋の伊藤圭介宛書翰について

吉川芳秋

郷土文化 三一―二

陽明学者山田方谷をめぐって

朝森要

日本歴史三五二

吾妻郡最後の蘭学者関恒齋

金井幸佐久

群馬文化 一七四・五

尾張城下の一文人―化政・幕末・明治を生きた小寺玉晁の場合―

市川登紀子

郷土文化 三二―一

紀州の洋学・研究覚書1

梅溪昇

和歌山県史研究 五

関流和算家古原三平とその学統について

水口忠孝

大分県地方史 八六

高島秋帆処罰事件の研究

佐藤昌介

紀要(東北大・教養) 二五

八宣長学Vの構造―文学への方法的反省のために―

茂木誠

人文学会雑誌(武蔵大) 九一―二

佐久間象山論―活文禪師の交遊とその展開―

土屋正晴

東洋研究 四七

本居宣長先生伝

多田道夫

和歌山大学教育学部紀要・人文科学 二六

幕末の思想家―象山と小楠の場合―(その一)

高本訓久

政治学論集(愛知教育大) 一

本居宣長の教育思想について―「ものあわれ」論との関連において―

巽幸孚

東京学芸大学紀要教育科学二八

象山と松陰

唐木順三

新潮七四―一一

平田篤胤の『新鬼神論』と徂徠・白石

三木正太郎

紀要(皇学館大) 一五

梁啓雄の荀子約注と邦儒の荀子説との關係―主として資料的考察―

藤川正数

日本中国学会報 二二九

平田篤胤における「古道」の意味

高神信也

智山学報 二六

藤井高尚と鐸屋―後期国学の一断面―

藤井芙紗子

国語国文 四六―一二

シボルトル『日本』の書誌学的考察―初版と再版の比較を中心として―

沓沢宣賢

湘南史学 三

三河吉田藩における国学の継承

芳賀登

歴史研究(大阪教育大) 一四

甲陽軍鑑の版本について

酒井憲二

紀要(山梨県立女子短大) 一〇

仙台藩赤子養育仕法の思想史的研究—中間層の養育觀の思想的役割について—

好見 真理子

日本思想史研究 九

背教者・不干齋フアビアンの生涯(補説)

井上 勝美

史学 四八—一

日本におけるイエズス会士の布教方法への一考察

葛井 義憲

基督教研究 四一—一

幕藩制成立期における排耶活動—禅僧を中心に—

村井 早苗

日本史研究 一八二

辺土仏「マリア觀音」の深層

藤原 暹

季刊日本思想史 三

潜伏キリシタン—小豆島—

川野 正雄

日本歴史三五四

村落と宗教—天草のキリシタン—

横尾 泰宏

熊本史学 五〇

清家神道から理当心地神道へ

今中 寛司

季刊日本思想史 五

林羅山の神道思想

高橋 美由紀

〃

羅山・闇齋・藤樹学に於ける排仏容神論の思想的的研究

倉田 信靖

東洋研究 四六

山崎闇齋の「伊勢太神宮儀式序」の初稿本について—二宮叢典本伊勢太神宮儀式序

川北 靖之

皇学館論叢 一〇—四

伯家における神道の形成

久保田 収

紀要(皇学館大) 一五

本居宣長の神道説に関する一考察

岡田 千昭

一般教育研究(愛知学院大) 二四—三

本居宣長の神觀—禍津日神と直毘神—

野口 武司

宗教社会史研究

平田篤胤と民衆基層信仰

井上 順孝

宗教研究 五一—一

按司時代の祭政一致

知名 定寛

国史学研究(龍谷大) 三

徳川初期における臨濟禅の低迷とその打開—自隱禅出現の時代背景—

木村 静雄

禅文化研究所紀要 九

伯蒲慧稜と紫衣事件

加藤 正俊

〃

近世日蓮宗における『草山清規』の位置

松村 寿敏

日蓮とその教団 二

近世における仏教教育—二淨土宗檀林

斎藤 昭俊

密教学一三・四

優陀那日輝研究ノート

小野 文瑠

日蓮教学研究所紀要 四

隠元と黄檗寺院

服部 文雄

月刊文化財 一六三

近世真宗門徒の制法—特に僧様の檀中制法について

千葉 乗隆

竜谷大学論集 四一〇

江戸仏教の戒律思想—二—

上田 靈城

密教学研究 九

江戸仏教と庶民—『妙好人伝』を中心として—

小川 道子

仏教史学(龍谷大) 一〇

鈴木正三における「世法則仏法」の成立—天道をめぐる近世思想の一考察—

高島 元洋

倫理学年報二六

『現証往生伝』について

長谷川 匡俊

日本仏教 三九

「三河往生験記」について

圭室 文雄

〃 四〇

江戸幕府の仏教統制
—天保期・日蓮宗を中心として—

北島 正元

宗教社会史研究

近世の真言宗の教育—二—

齋藤 昭俊

密教学研究 九

近世末の民衆宗教
—不二道の思想と行動—

宮崎 ふみ子

日本歴史 三四四

会津における太子信仰
—太子守宗をめぐる—

藤田 定興

尋源(大谷大) 二九

元興寺極楽坊の庶民信仰について

伊東 謙助

駒沢史学 二四

当麻寺縁起と中将姫説話

五来 重

文学 四五—一二

江戸の仏教年中行事

中尾 堯

風俗 一六一—

清正公信仰の展開—江戸後期における庶民信仰の動向—

池上 尊義

宗教社会史研究

近世の稲荷信仰について
—大阪府南河内地方を中心として—

藤本 幸雄

ヒスリトア七六

信濃の庚申信仰
—庚申堂をめぐる—

尾身 栄一

信濃 二九—一

流行神の特徴

宮田 登

歴史と地理 二五八

近世日本における道教受容について—瓦谷山人日井教美を中心—

秋山 高志

茨城史学 一二

「辺境」の美術
—日本洋風画への比較文
化史的視点—

芳賀 徹

歴史と地理 二六四

「可笑記」の当世批判
—「童観抄」との関連に
即して—

渡辺 守邦

文学 四五—一一

東丸と真淵と 上・下

羽倉 敬尚

神道学 九二・三

「仁政」の思想と「御家」
の思想—幕藩制政治思想の
矛盾的構成—

田原 嗣郎

思想 六三三

近世後期の支配イデオロギ
—佐藤信淵の場合—

平田 厚志

龍谷史壇 七二

「名君」の思想—細川平州
の思想と学問—

辻本 雅史

紀要(京大・教
育) 二三

会津藩体制と神儒仏思想

庄司 吉之助

商学論集(福島
大) 四六一—

広島藩「六会法」の歴史的
意義

藤沢 勇

広島県史研究二

文化年代、賀茂郡割庄屋の
政治的意見書について

土井 作治

芸備地方史研究
一一二

三浦命助「松前」移住論の
史的意義—「獄中記」の史
料批判を通して—

菊池 勇夫

歴史評論三三一

近世中期—幕末維新时期にお
ける農民層の政治・社会・
経済認識の展開に関する一
考察(一)—羽州村山郡谷
地の場合—

大藤 修

史料館研究紀要
九

奥州信達地方を中心とした
平田派国学者と世直し—揆
田豪農層に対する評価を
中心に—

岸野 俊彦

研究紀要(名古屋
自由学院短
大) 九

幕末・維新期上州の政治情勢(二)―世直しの論理と民衆支配の論理―

御一新と農民の動行―

世直し騒動

藤田幽谷研究ノート

攘夷論の成立と論理―『新論』について―

会沢正志齋における「国体」

吉田松陰と幕末ラジカリズム―誠感吾論と一筆奸権誅論―

吉田松陰における「急進主義」の構造―安政五・六年の直接行動を中心として―

吉田松陰思想の転回―尊攘から討幕への理路―

吉田松陰にみる蘭学摂取の一過程をめぐって

高須久子と吉田松陰

石田梅岩の商業思想

江戸時代における貨幣品位論―山片蟠桃と草間直方

中島 明

信濃 二九―二

享保期社会経済思想史雑考―石田梅岩・三輪執斎について―

多田 顕

研究報告A―一〇(千葉大・教養)七七―一二

〃

〃 二九―八

正司考祺の「儉法富強録」その他とその経済思想

宮本 又次

季刊日本思想史 三

佐々木 潤之介

前衛 四一八

横井小楠の経済思想―日本における自由主義経済思想の濫觴―

山崎 益吉

高崎経済大学論集 一九―四

大月 明

人文研究(大阪市大・史学)

『海中舟道考』について紹介

飯田 嘉郎

海事史研究 二九

露 口 卓也

日本思想史学 九

日蘭学会・法政蘭学研究会編「和蘭風説書集成」上巻

沼田 次郎

日本歴史 三五―四

後藤 広子

大学教育制度研究 八

衣笠安喜著『近世儒学思想史の研究』

辻本 雅史

史林 六〇―五

山 岸 鉦一

現代の眼 一八―七

藤井定義著『懐徳堂と経済思想』

田 谷 博吉

歴史研究(大阪府大) 一八

内 藤 俊彦

法政理論(新潟大学法学会) 一〇

宮崎道生博士の「新井白石序論」増訂版を読む

荒 川 久寿男

皇学館論叢 一〇―二

大 溝 信夫

日本史論叢 七

芳賀登著『民衆史観』

福 田 広一郎

地域史研究(尼崎市立地域研究史料館) 七―二

大 塚 英明

史叢 二〇

日野龍夫著「江戸人とユーロピア」

小 宮 彰

比較文学研究 三二

布 引 敏雄

地方史学研究 二七―四

中村幸彦著「近世文芸思潮」

野 口 武彦

国語と国文学 五四―三

竹 林 庄太郎

経営経済 一三

近 代

伊 藤 弥彦

同志社法学 二八―四

藤 井 定義

経済研究(大阪府立大・経済) 二二―二

維新と人心をめぐる一試見

伊 藤 弥彦

同志社法学 二八―四

石 田 梅岩

府立大・経済) 二二―二

維新と人心をめぐる一試見

伊 藤 弥彦

同志社法学 二八―四

藤 井 定義

府立大・経済) 二二―二

維新と人心をめぐる一試見

伊 藤 弥彦

同志社法学 二八―四

日本啓蒙思想の考察
—『明六社』の成立と『明六雑誌』の刊行—

森 一 貫

日本文化史研究
(帝塚山短大) 一

昭和十年代の思想と文学

伊豆公夫 他
座談会

日本文学 二六一—

明治思想史の方法と課題
—儒教的伝統と近代認識論—

渡 辺 和 靖

愛知教育大学研究報告 第一部
人文科学・社会科学 二六

近代日本女性史の方法試論
—最近の方法論論争によつて—

古 庄 ゆき子

紀要(別府大) 一八

ノーマン史学の評価の問題
日本観をめぐるハインの初期と晩年—文化比較の条件を求めて—

遠 山 茂 樹

思想 六三四
日本常民文化紀要(成城大) 三

幕末・明治期の広島心学(上)—宮本愚翁の心学思想について—

木 京 睦 人

芸備地方史研究 一一五

福沢諭吉研究ノート
—表記と読者層—資料
福沢諭吉の家族論
—国内社会の秩序形成と家族道德との関係—

進 藤 咲 子

東京女子大学論集 二八一—

福沢諭吉の「脱亜論」についての一視点—その執筆の要因を中心として—

中 江 和 恵

人文学報(都立大) 一一二—

「文明論之概略」ノート

正 田 庄 次 郎

研究報告(久留米工業高専) 二七

「民約訳解」中絶の論理

井 田 進 也

北里大学教養部紀要 一一一
思想 六四一

啓蒙思想家の女子教育観

河 原 美 耶 子

日本大学人文科学研究所研究紀要 一九

井上毅の教育思想—教育勅語と井上毅

野 口 伐 名

弘前大学教育学部紀要 三八

修身教科書に現われた武士道の研究—2

黒 川 須 銀 洋 吾

防衛大学校紀要 三五

明治軍隊における「忠君愛国」の精神の成立

平 田 俊 春

軍事史学 一三—二

大西祝と批評主義の展開

山 田 洸

現代と思想 二九

西田哲学と否定的弁証法

関 根 靖 光

哲学(日本哲学会) 二七

西田幾多郎における哲学と宗教とのかわり

沼 田 滋 夫

横浜国立大学人文紀要 第一類 哲学社会科学 二三

大正期における倫理・宗教思想の展開—6 大正期における西田哲学の形成

峰 島 旭 雄

早稲田商学 二六六

昭和恐慌下における「自力更生」と報徳社運動—静岡県小笠郡土方村の場合—

小 川 信 雄

駿台史学 四〇

津田左右吉とJ・G・フレイヤ

卯 野 木 盈 二

熊本史学(熊本大) 五〇

「老農」思想の成立(上)—石川理紀之助の評価を中心に—

佐 藤 俊 介

秋田近代史研究 二二二

「国家神道体制」研究の発展のために—宮地正人氏の批判に接して—

中 島 三 千 男

日本史研究 一八四

神仏分離の展開とその影響
—羽州温海嶽修験道の場
合—

嶽本海承

宗教社会史研究

明治前期におけるキリスト
教受容の一考察—弘前教会
を中心として—

岡部一興

日本歴史

三四八

松山高吉の神道論

関根文之助

神道宗教 八八

明治十年代におけるキリス
ト教の弁証—山崎為徳『天
地大原因論』から植村正
久『真理一斑』へ

田代和久

日本思想史研究 九

明治維新と近代仏教の形成

田平暢志

研究紀要(鹿児島短大) 一九

不思議を置く
—清沢満之の哲学—

山下秀智

倫理学年報 二六

山路愛山と基督教—明治20
年代を中心として—

山本幸規

キリスト教社会
問題研究 二六

清沢満之の主題と方法
—3—

出雲路暢良

金沢大学教育学
部紀要人文・社
会・教育科学編 二五

山路愛山研究 —2—
内村鑑三の世界観と
Shakespeare の人間観
—中の5—

定平元四良

関西学院大学社
会学部紀要三四

清沢満之の思想形成—東京
留学期における

大桑齊

大谷学報 五六—四

内村鑑三における「独立」
の意味

前田利雄

札幌大学外国語
学部紀要文化と
言語 一〇—二

浩々洞と精神主義運動
—清沢満之を中心に—

阿部達彦

京都大学教育学
部紀要 二三

内村鑑三と朝鮮

高崎宗司

思想 六三九

「教育と宗教の衝突」論争
をめぐる仏教側の対応
—仏教関係雑誌を中心に—

山本哲生

教育学雑誌 一一

内村鑑三における国民経済
形成の主体

滝沢秀樹

甲南経済学論集
一八一—二

地獄・極楽と妙好人—日本
仏教の伝統が庶民感情に
与えたプラスとマイナ
ス(現代のアナキズム—
運動のチェック機能とし
て)

折原脩三

思想の科学(第
六次) 八三

内村鑑三と中江藤樹

鈴木範久

季刊日本思想史 三

夏目漱石と仏教—特に他力
浄土門との関係
—上、下—

宮沢正順

日本仏教 四二、四三

柏木義門と熊本—奥村事件
との関連において—
熊本における教育と宗教と
の衝突(三)

上村一之

熊本女子大学学
術紀要二九—一
近代熊本 一九

日本中小機業者と真宗倫理
—輸出羽二重生産に關連
して—

黒崎征佑

史苑(立教大)
三八—一・二

深沢利重の思想と実践
—ある地方キリスト者の
場合—

萩原俊彦

キリスト教史学 三一

森田思軒の出発―「嘉坡通信報知叢談」試論―

藤井淑禎

国語と国文学 六三八

小室信介における文学(前)―『東洋民権百家伝』

和田繁二郎

立命館文学 三八六(三九〇(合併号))

天皇制と日本近代

遠山茂樹

日本史研究 一七七

大同団結運動覚書―近代天皇制成立論序説―

藤井松一

紀要(立命館大・人文科学研) 二四

天皇および天皇制についての一考察―第二次大戦における天皇の立場・思想を中心―

美和信夫

モラロジー研究 五

「明治憲法体制」の確立と国家のイデオロギー政策―国家神道体制の確立過程―

中島三千男

日本史研究 一七六

明治神道行政上の二、三の問題

鎌田純一

皇学館論叢 一〇―三

攘夷から和親へ、また皇国観念の始末

唐木順三

新潮 七四―一二

明治国家の思想としての「文明開化の特権」について

田中明

三田学会雑誌 七〇―一

自由民権運動と政党構造―政党運動と地域との関連をめぐって―

渡辺隆喜

駿台史学 四二

中江兆民における「民主主義」の構想―民主主義の運動と運動における民主主義―

寺尾方孝

法学志林(法政大) 七四―二・三、四、七五―一

徳富蘇峰と中江兆民―兆民の書翰から

柿沢真知子

日本歴史 三四六

三島中洲と中江兆民―兆民の新発見資料をめぐって

福島正夫

思想 六四一

自由民権期における留岡幸助―近代日本における社会事業家の平民主義形成をめぐって―

村山幸輝

キリスト教社会問題研究 二六

留岡幸助の事業と思想―「留岡幸助日記」をめぐって

松沢弘陽

世界 三八二

民権教育運動と蘇峰星雲

花立三郎

近代熊本 一九

房州民権運動の展開と加藤淳造

三浦茂一

千葉県の歴史 一四

辺境の民権論者―桑原重正―

山名正平

地方史新瀾 一二

一地方教師における自由民権運動―佐渡の「社会教育家」本荘了寛の場合―

久木幸男

横浜国立大学教育紀要 一七

自由民権運動と朝鮮問題

武藤博紀

政治学論集(愛知教育大) 一

元田永孚の思想形成―明治保守主義思想研究の前提として―

沼田哲

文経論叢(弘前大) 一二―四

明治期のナショナルリズム研究―三宅雪嶺の「国粹主義」

小寺正一

京都教育大学紀要 A 人文・社会 五一

日本における近代保守主義の成立とその特質―陸羯南の立憲政論

米原謙

阪大法学 一〇四

小野梓の国憲論・国会論

中村尚美

社会科学討究(早大) 二二―三

小野梓の「東洋政局」論

中村尚美

社会科学討究
(早大) 二二二—二二二

後藤新平論—闘争的世界像
と「理性の独裁」—
(一) (二) 完

溝部英章

法学論叢
一〇〇—一一二

国木田独歩とその政治思想

青木駿介

千葉県の歴史
一—三

戦前日本の統一戦線をめぐる
研究動向

広川禎秀

歴史学研究
四四六

社会問題の発生と明治社会主義

秋元律郎

社会科学討究
(早大) 二二二—二二二

柳田国男と地方主義

伝田功

研究紀要(滋賀
大・経済) 一〇〇

明治の社会主義 (3)

飯田鼎

三田学会雑誌
七〇—一

日本ファシズムの研究視角

安部博純

歴史学研究
四五—

日本社会主義運動における
山川均の位置—中

三宅敏雄

現代の理論
一四—七

日本ファシズム研究によせ
て—弁明史観批判

壬生史郎

〃

日本マルクス主義の一つの
里程標—高橋貞樹の思想的
軌跡—(中) (下の二)

沖浦和光

思想
六三—二
六三—五
六三—六

戦前における「日本ファシ
ズム」観の変遷—一九三一
年から一九三七年まで

吉見義明

〃

日本アナキズム思想史序論
—文献問題をかねて

しまねきよし

思想の科学(第
六次) 八三

治安維持法制下の思想・宗
教弾圧

森長英三郎

法学セミナー増
刊 七七—一〇

日本におけるロシア革命観

倉持俊一

思想 六四—二

ファシズム期における尾崎
行雄のナショナリズム

栄沢幸二

紀要(信州大・
教養) 一一

吉野作造にかんする覚え書
—「民主主義の二つの種
類」と「民衆と政党との
関係」を中心に—

湯川和夫

社会労働研究
二二—三—四

北一輝論 — 5 —

古屋哲夫

人文科学(京大
大学人文科学研
究所) 四三

大正期農民政治思想の側
面—農民党論の展開とその
前提—(上) (下)

鈴木正幸

日本史研究
一七—三

日露戦争と北一輝—「北学」
形成における決定的意義
について—

岡本幸治

社会科学論集
(大阪府大)

大場茂馬と大正デモクラシ
—

金原左門

歴史手帖 五—一

昭和維新の思想と行動

西村公孝

政治学論集(愛
知教育大) 一

大正デモクラシー期の『芸
備日々新聞』

安藤福平

広島県史研究 二

玄洋社形成過程に関する一
考察

犬丸昭弘

近代熊本 一九

原敬と自由民権
—鷲山樵夫論説考—

有泉貞夫

研究報告(東京
商船大) 人文科
学 二七

大東亜共栄圏の構想

河原宏

人文社会科学研究
(早大・理工) 一五

アジア連帯主義から大アジア主義へ—熊本紫溟会を中心として—
史艸(日女大) 一八

転向論 近代天皇制下の論理と倫理
現代の眼 一八一—一二
栗原幸夫

転向論序説1 一九四〇年代の再検討
季刊世界政経 六三
中島誠

婦人運動史における家族の問題
人文学報(都立大) 一一八
米田佐代子

沢沢栄一におけるイデオロギ—と革新性
大阪大学経済学 二六—三・四
瀬岡誠

藤井貞文博士著「明治国学発生史の研究」を読む
神道学 九五
荒川久寿男

思想的巨人の再発見 —「田中正造全集」
朝日ジャーナル 一九—四五
竹内良知

武田清子著「正統と異端のあいだ」—日本思想史研究試論—
宗教研究 五一—二
山川令子

藤井貞之著『明治国学発生史の研究』
国学院雑誌 七八—一〇
芳賀登

ひろたまさき著『福沢論吉研究』
歴史学研究 四四—
遠山茂樹

〃
史学雑誌 八六一—
田崎哲郎

〃
日本史研究 一七五
猪飼隆明

〃
歴史学研究 四四七
桜庭宏

山中永之祐著『日本近代国家の形成と村規約』
歴史学研究 四四七

大原慧著『幸徳秋水の思想と大逆事件』
飯田鼎
三田学会雑誌 七〇—四

補遺

昭和五十一年

日本霊異記にみられる孝の観念について
河村太市
山口女子大学研究報告第一部人文・社会科学二

践祚大嘗祭をめぐって
岩本徳一他
千葉大学教育学部研究紀要二五

講義聞書にみられる明恵上人の思想
田中久夫
神道宗教 八三

日本文化と神風思想の原点 —「宗教文化の構造的解に關する試論」
平野孝国
国学院大学日本文化研究所紀要 三八

「古日本カムサスカ」と魯鈍齋利明—一八世紀末日本書の時間観念についての覚
横山俊夫
人文学報(京都大学人文科学研究所) 四二

伊藤仁斎の実学観とその思想
源了圓
東北大学文学部研究年報 二六

大正期における倫理・宗教思想の展開—四土田杏村の哲学・再評価—統一統—
峰島旭雄
早稲田商学 二六一

明治啓蒙思想と導入期の社会学
秋元律朗
社会科学討究 二二—二

発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳躰をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田一良

日本思想史研究 第十二号

昭和五十五年三月十五日 印刷
昭和五十五年三月二十五日 発行

編集代表者 玉 懸 博 之

仙台市日の出町二丁目四ノ二

印刷所 (株) 仙台共同印刷

仙台市川内

発行所 東北大学文学部

日本思想史学研究室

